

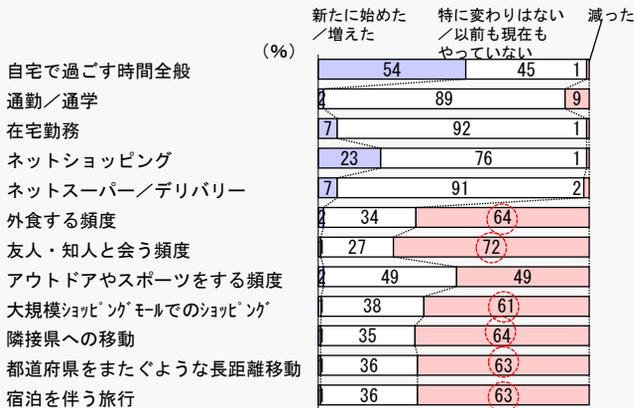
2021年度「軽自動車の使用実態調査」要約

一般社団法人 日本自動車工業会

I. 新型コロナウイルスによる変化 (本編 P19~23)

- 新型コロナ禍により外食、友人知人と会う、ショッピング、旅行等外向きの活動が減少しました。
- 鉄道・バスなど公共交通機関での利用を減らし車の利用を増やしました。特に高密度地域で高いです。

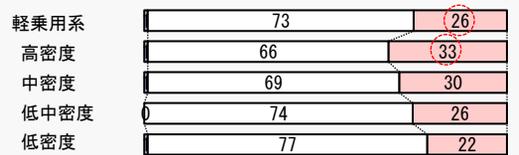
【新型コロナ禍以降の生活変化】



【移動手段の変化:主にお乗りの軽自動車】



【移動手段の変化:鉄道】



II. 軽自動車の使用と購買実態 (本編 P24~46)

- 軽乗用系の中心ユーザーは、60代以上が増加し高齢化が進んでいます。
- 使用頻度では「ほとんど毎日」が68%を占めています。
- 世帯年収は、「200~400万円未満」が多くなり、「800万円以上」の世帯が減少しています。
- 軽キャブバンでは65歳以上が42%を占め、主用途は商用用途が57%を占めています。
- 軽トラックでは65歳以上が60%と増加し、農業で使われている人が55%を占めています。

軽乗用系 (軽ボンバン含む)

【主運転者年代】



【世帯年収】



【使用頻度】



【併有状況】



II. 軽自動車の使用と購買実態 (続き)

軽キャブバン・軽トラック

【主運転者年代】

軽キャブバン

(%)	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	平均年齢(歳)	65歳以上比率
13年度	2	13	25	19	25	16	55	29
15年度	3	9	18	21	27	22	57	36
17年度	2	12	23	18	20	25	57	35
19年度	3	7	23	19	23	25	58	39
21年度	3	7	18	21	22	29	59	42

【主用途】

※2017年度から集計方法を変更したので過去のデータとは連続しない

(%)	商用用途	乗用用途	農用用途
13年度	53	40	7
15年度	61	35	4
17年度	65	28	7
19年度	53	39	8
21年度	57	38	5

軽トラック

(%)	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	平均年齢(歳)	65歳以上比率
13年度	3	6	11	18	40	22	60	41
15年度	2	5	11	22	30	30	61	45
17年度	2	7	11	17	32	31	62	50
19年度	2	7	10	16	31	34	63	51
21年度	6	7	13	33	40		65	60

(%)	商用用途 (農業使用あり)	乗用用途 (農業使用なし)	農用用途	
13年度	38	18	11	33
15年度	39	18	11	32
17年度	31	14	12	43
19年度	36	26	3	35
21年度	44	11	13	32

III. 軽自動車の存在意義 (本編 P47~62)

- 軽自動車は、公共交通機関が不便な人口密度の低い地方部に多く普及しています。
- 人口密度が低い地域ほど、軽自動車は生活に必要なライフラインとなっており、軽自動車がなくなり大きい車しか使えなくなった場合の困窮度が高まります。
- 60代以上の高齢者では軽自動車がなくなり大きい車しか使えなくなった場合に困る人が約6割います。また、運転をやめたいと考えている年齢についても、「80歳以上」と考えている人が約6割とまだまだ乗り続けたい意向があります。
- 女性では軽自動車がなくなり大きな車しか使えなくなった場合に困る人が約6割います。

地域

【車種別 保有地域】

(%)	低密度	低中密度	中密度	高密度		
人口構成比	28	23	15	34		
保有台数構成比						
軽自動車 全体	45		28	13	14	
軽乗用系	42		30	14	14	
軽キャブバン	41		25	12	22	
軽トラック		62		23	8	7

※密度区分についてはP4をご参照ください

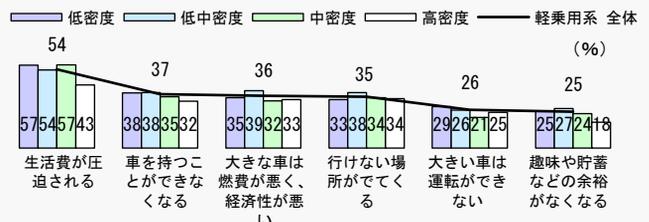
【軽より大きい車しか使えなくなった場合の困窮度】

(%)	非常に困る	それほどでもないが困る	どちらでもない	困らない	困る計
軽乗用系 全体	28	33	18	21	61
高密度	23	37	19	21	60
中密度	22	33	21	24	55
低中密度	26	33	20	21	59
低密度	32	32	15	21	64

【軽への意見(軽はライフラインである)】

(%)	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	思わない	そう思う計
軽乗用系 全体	47	26	23	4	73
高密度	34	29	29	8	63
中密度	43	33	20	4	76
低中密度	47	26	24	3	73
低密度	54	23	20	3	77

【軽から普通自動車に変えると生じる不都合】



Ⅲ. 軽自動車の存在意義 (続き)

高齢者

【軽より大きい車しか使えなくなった場合の困窮度】

軽乗用系 全体	(%)				困る計
	非常に困る	それほどでもないが困る	どちらでもない	困らない	
軽乗用系 全体	27	33	18	22	60
50代以下	26	32	18	24	58
60歳以上	30	34	18	18	64
60～64歳	29	33	21	17	62
65～74歳	26	35	18	21	61
75歳以上	40	33	16	11	73

【運転をやめたい年齢(40代以上限定)】

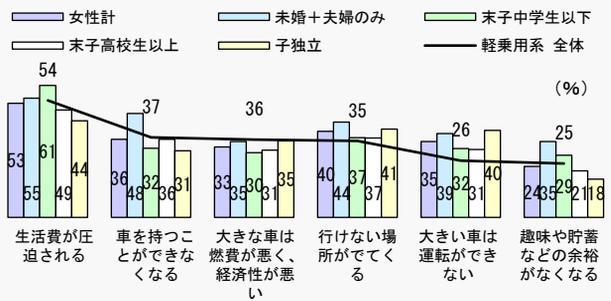
軽乗用系 全体	(%)				
	～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
軽乗用系 全体	5	18	28	37	12
40～50代	9	31	26	29	5
60代以上	7	29	44	19	
60～64歳	5	21	35	33	6
65～74歳	4	34	50	12	
75歳以上	6	39	55		

女性

【軽より大きい車しか使えなくなった場合の困窮度】

軽乗用系 全体	(%)				困る計
	非常に困る	それほどでもないが困る	どちらでもない	困らない	
軽乗用系 全体	27	33	18	22	60
女性計	29	34	17	20	63
未婚+夫婦のみ	26	31	17	26	57
末子中学生以下	28	32	15	25	60
末子高校生以上	30	36	19	15	66
子独立	30	38	16	16	68

【軽から普通自動車に変えると生じる不都合】



Ⅳ. 安全技術に対するユーザー意識 (本編 P63～68)

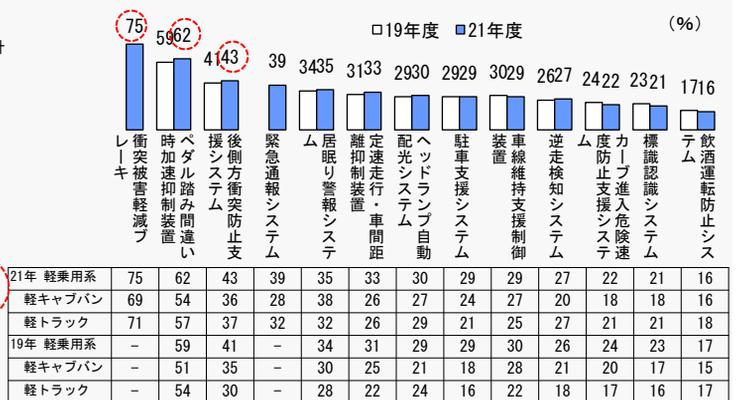
- 軽自動車ユーザーの36%は「軽は安全な移動をサポートしてくれる」と思っており、60代以上で増えています。
- 先進安全装備・機能の装着意向は「衝突被害軽減ブレーキ」「ペダル踏み間違い時加速抑制装置」「後側方衝突防止支援システム」が上位にあがっています。

【軽自動車に対する意見】

「軽」は安全な移動をサポートしてくれる

軽乗用系 全体	(%)				困る計
	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	
軽乗用系 全体	14	22	48	10	36
20代以下	19	15	52	8	34
30代	10	20	48	14	30
40代	13	24	47	11	37
50代	13	23	44	12	36
60代	14	23	49	8	37
70代以上	16	24	49	7	40
軽キャブバン	20	18	43	14	37
軽トラック	16	21	44	12	37

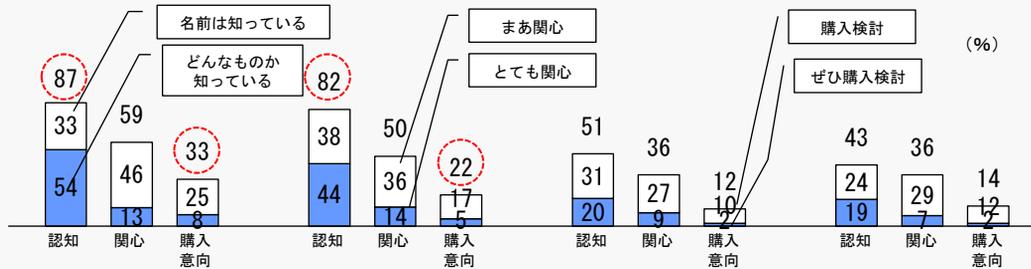
【先進安全装備・機能の装着意向】



V. 次世代環境技術に対する関心度(本編 P69~77)

○「ハイブリッド車」「電気自動車」の認知は約9割あるものの、購入意向は2~3割未滿にとどまります。

【環境対応車の認知・関心・購入意向】



<上位2項目計>	ハイブリッド車		
21年 軽乗用系	87	59	33
軽キャブバン	89	52	27
軽トラック	89	59	30
19年 軽乗用系	-	-	-
軽キャブバン	-	-	-
軽トラック	-	-	-

電気自動車			
	82	50	22
	88	49	21
	86	54	28
	81	47	17
	83	46	17
	79	39	17

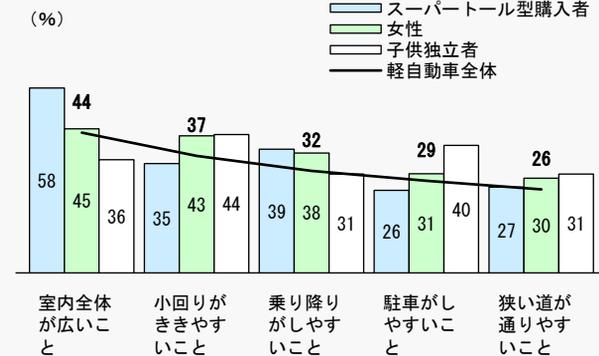
燃料電池車			
	51	36	12
	63	39	9
	61	42	15
	51	33	8
	63	36	9
	62	32	9

プラグインハイブリッド車			
	43	36	14
	51	37	10
	51	37	13
	43	38	14
	54	42	16
	54	32	11

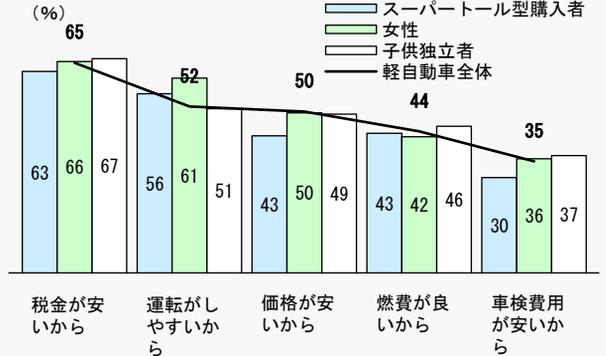
VI. 軽自動車の持つ魅力点 (本編 P78~81)

- 軽自動車購入時に重視する点は、スーパーツール型購入者は「室内全体が広いこと」、女性は「小回りが利きやすいこと」「乗り降りがしやすいこと」、子供独立者は「駐車がしやすいこと」が高くなっています。
- 次回軽自動車を選択する理由は、「税金が安いこと」など経済面の理由の他に「運転がしやすいから」という使用面での理由があり、女性でその割合が高くなっています。

【軽自動車購入時重視点】



【次期軽自動車選択理由】



調査設計

調査手法	訪問留置調査	自記式WEB質問紙調査 (インターネット調査)	オンラインデプス インタビュー調査	密度区分	人口密度	調査地点例
調査対象	軽自動車を保有する世帯及び事業所	男女20-79歳の免許保有者	大都市圏/地方圏 × 次期EV検討・非検討 × 買替予算(増額/維持 減額)	高密度	4,000人/km ² 以上	・北海道札幌市東区 ・東京都品川区 ・大阪府大阪市生野区 など
回収数	3013サンプル -軽乗用車 1821サンプル -軽ボンバン 313サンプル -軽キャブバン 374サンプル -軽トラック 505サンプル	1097サンプル -軽乗用系 803サンプル -普通乗用車 294サンプル	合計 15名	中密度	1,500~4,000人/km ² 未滿	・埼玉県さいたま市岩槻区 ・岐阜県岐阜市 ・熊本県熊本市東区 など
調査時期	2021年10月1日~11月23日	2021年12月7日~12月12日	2022年1月27日~1月29日	低中密度	500~1,500人/km ² 未滿	・茨城県水戸市 ・富山県滑川市 ・宮崎県宮崎市 など
				低密度	500人/km ² 未滿	・山形県米沢市 ・愛媛県西条市 ・山口県岩国市 など

問い合わせ先: 一般社団法人 日本自動車工業会 (<http://www.jama.or.jp>) 〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館